

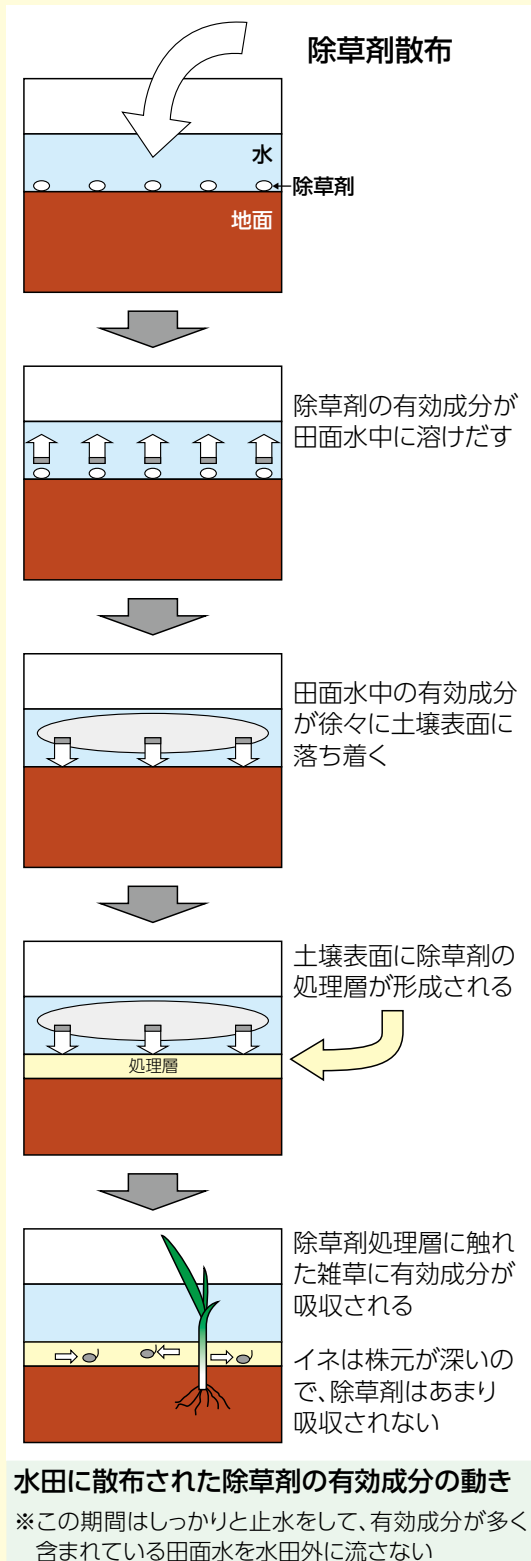
営農情報



水田雑草防除対策を効果的に

水面から土が少しのぞく水田に、日増しに早苗が広がりゆく季節です。農作業では、一つひとつの作業の出来栄が次の作業に微妙に影響を及ぼしていきます。今回は、水田雑草防除について取り上げます。

初期剤や一発処理剤が雑草に効くまで——水管理が大切——



- 水田に散布された除草剤の成分は、いったん田面水に溶けてから、数日かけてゆっくりと土壌表面に落ち着きます。
- 土壌表面に薄い除草剤の層（処理層）を作り、そこで発芽直後の雑草に吸収されて、除草効果を発揮します。
- その後、土壌表層の有効成分は少しずつ分解されて、いずれは除草効果がなくなります。
- 最初に土壌表層に落ち着く有効成分の量が多ければ多いほど、効果がなくなるまでの期間（残効期間）は長くなります。

- 除草剤成分のすべてを土壌表層に落ち着かせるために、除草剤散布後の数日間はずっかり止水をして、有効成分を水田内に保持するようにします。
- 除草剤散布直後は、田面水中の除草剤濃度が極めて高いので、この時期に田面水が水田外へ流れ出て、処理層の除草剤成分濃度が低くなると、除草効果が低下して残効期間も短くなります。
- 農薬が水田外へ流出するといった、環境保全上の問題も生じますので、くれぐれも田面水を田外に流さないよう、気をつけましょう。

